

1 『教育目標』

(1) 本校の教育目標

次代を見据えた教育活動の創造に努め、本校の恵まれた特色ある自然環境を生かしながら、すぐれた創造性（知）、豊かな人間性（徳）、たくましい実践力（体）を身に付けた、未来の創り手となる子供を育成する。

【めざす子供像】

○げんきな子

自他の健康や安全に気を付け、進んで体を鍛え、笑顔いっぱいに活動できる子

○がんばる子

自分が定めた目標に向け、最後まで粘り強く取り組むことができる子

○すなおな子

豊かな感性や思いやりの心を持ち、友達や学校、地域に進んで貢献できる子

○くふうする子

自ら問題を発見し、よい方法や手段を考えながら自分で解決できる子

(2) 経営方針

- ① 実際の生活に生きて働く「知識や技能」の習得を重視し、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を身に付け、自己の生き方に生かすことのできる子供を育てる。
- ② 家庭や地域の願いを受け止め連携を図りながら、小規模校の特徴を生かし、温かい人間関係の中で、自他を尊重して生きることのできる心豊かな子供を育てる。
- ③ 礼儀や礼節を重んじ、規律ある生活及び学習習慣を身に付けるとともに、確かな知識と的確な判断力をもって、自ら考え主体的に行動できる実践力のある子供を育てる。
- ④ 「一人を粗末にするとき、教育はその光を失う」の理念のもと、人を育てるといふ崇高な使命を自覚し、教職員一人一人が個性や持ち味を生かしながら、人間性・専門性・指導性を共に磨き合うことで自己を高め、信頼される学校づくりを推進する。

(3) 本年度の重点努力目標 「学び方」の探究

①すぐれた創造性（知）を育てる

- ・学ぶことの意義や価値を、丁寧に継続的に伝え、子供が自分自身の「学び方」を主体的に探究していく足掛かりをつくる。
- ・学びの計画を立てる力、自己を見つめる力、計画を修正する力の育成を通して、子供が自立的に学ぶ姿を引き出す。
- ・個別最適な学びと協働的な学びを往還する単元や授業を構想し、一体的に推進する過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげる。
- ・学年や発達段階及び、各教科・領域の特性に応じた適切な場面での計画的な ICT 活用教育を通して、子供が情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための資質を育む。

②豊かな人間性（徳）を育てる

- ・地域に学び、主体的に地域と関わることで、ふるさと竜谷への誇りと愛着がもてるようにする。
- ・縦割り活動において、異学年が交流できる機会を効果的に位置付けることで、円滑な人間関係を構築し、思いやりの心を育む。
- ・子供の声に真摯に耳を傾け、個の特性を理解し、一人一人に寄り添った指導を行う。
- ・保護者や地域の声に謙虚に耳を傾け、保護者の願いと地域の期待を捉えられるよう情報の収集と発信に努め、教育活動に反映させる。

③たくましい実践力（体）を育てる

- ・代表委員会を中心とした委員会活動や縦割り活動、係活動等において、子供が主体的に行動する力を育てる。
- ・学校行事や学級活動において、子供が自主的に企画運営し活躍できる場面を増やすことで、役割に責任をもたせる。
- ・挨拶や返事、時間を意識したけじめある生活、清掃活動の充実、外遊びの励行など、規律と望ましい生活習慣を定着させる。
- ・防災について、正しい知識、的確な判断力、場に応じた行動、自ら危険回避できる実践力を育む。

④多忙化解消にかかる業務改善について

- ・校内で知恵を出し合うボトムアップ型の業務改善や、個々のタイムマネジメント力の向上に取り組む。
- ・事前の会議内容の論点共有や、教員補助者や校務支援員への支援依頼書の導入等、業務内容の共有や見える化を推進する。
- ・授業の準備や、職員同士の情報交換や連絡伝達などに電子データやグループウェアを効果的に活用する。

（４）めざす教師（教職員）像

- ① 「一人を粗末にするとき、教育はその光を失う」の理念のもと、一人一人の子供を大切に慈しむことができる教師。
- ② 自身の「学び方」を探究し、自己研鑽に努めるとともに、子供の学び方のロールモデルとなることのできる教師。
- ③ 互いに敬愛し合うとともに、自身の個性や持ち味を生かしながら、主体性を発揮して学校運営にかかわることのできる教職員。

